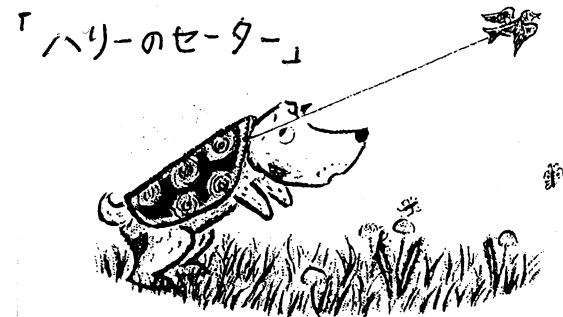


1月の 園便り



みるみる セーターが ほどけはじめました。
はじめに、こっちの あしから—つづいて くびのあたり—

26 年 新潟青陵幼稚園 加藤 由美子

新年あけましておめでとうございます。みなさま良いお年をお迎えになられたことと存じます。今年もよろしくお願いいたします。

絵本「ザガズー」(クエンティン・ブレイク作 谷川俊太郎訳)

「幸せなご夫婦にある日赤ちゃんがやってきました・・・赤ちゃんの名前はザガズー、二人はザガズーを中心に幸せなしあわせな日々を過ごしていました、しかし、ある日の朝、ザガズーはハゲタカになっていました。そして、しばらくすると今度はゾウになっていて、その次にはイボイノシシになって、その次にはリュウになっていました、そしてコウモリにもなって・・・さいごには“けぶかいきもの”になっていて、二人は『ゾウの方がまだまし・・・』とさえ思います。 ところがある朝……続く」この本の中には、子どもを育てているときに感じる戸惑いがみごとに表現されていて“な～るほど”と思います。この本のカバーに谷川俊太郎さんの文章が載っています。

「大人が子どもを育てる苦勞と子どもが自分で育っていく苦勞と、どっちが大変なんだろうと考えることがあります。大人は育てる苦勞を言葉にして表現できますし、本だってたくさん出ています。でも子どもは育つ苦勞を言葉にできません。子どもは苦勞を言葉にならない感情や行動で表現するだけです。クエンティン・ブレイクは、この絵本の中でそういう子どもを代弁しています・・・後略」

この谷川さんの文章に心から共感しています。子どもたちは本当に不自由な存在です。自分を表現するすべをまだ十分に使いこなせないのですから・・・大人はこのことを知ったうえで、子どもに寄り添い、子どもを理解してあげなくてはならないと思います。雨あがりの水たまりに入っていた男の子を見守っていらしたお母さんに「子どもって水たまりが好きですね」と言ったら、お母さんが「私も子どもの頃水たまりが好きだったから、よく分かります」と言われていました。自分が子どもだった頃のことを覚えているなんて素敵ですね。覚えていられるからこそ、わが子を水たまりで遊ばせてあげられるのですね、洋服が汚れる、長靴が濡れる、乾かすのが大変、と考えると二の足を踏んでしまうこともあるのですが・・・子どものころの遠い記憶を手繰り寄せて、子どもの気持ちを理解してあげられたらいいですね。

子どもが成長するまでには、ため息をつきたくなることも多いのですが、子どももまた、“育つ苦勞”をしているのだと考えたなら、子どもの心をしっかりと受け止めることが出来るように思えるのですが、いかがでしょう・・・

26年1月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	水	/	/		
2	木	/	/		
3	金	/	/		
4	土	/	/		
5	日	/	/		
6	月	/	/		
7	火	/	/		
8	水	×	11:30	第3学期始業式を行います。	
9	木	×	12:00	お餅つきの会です。降園時間が30分遅くなりますのでお願いいたします。	
10	金	○	2:00	給食が始まります。	
11	土	/	/	第2土曜日	
12	日	/	/		
13	月	/	/	成人の日	
14	火	○	2:00		
15	水	×	11:30	誕生会です。1月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いいたしましょう。	
16	木	○	2:00		
17	金	○	2:00		
18	土	/	/	大学入試のため自由登園はお休みです。	
19	日	/	/		
20	月	○	2:00		
21	火	○	2:00		
22	水	○	2:00	個人懇談を行います。	
23	木	×	11:30	個人懇談を行います。	
24	金	×	11:30	個人懇談を行います。	
25	土	/	/	第4土曜日	
26	日	/	/		
27	月	○	2:00		
28	火	○	2:00		
29	水	○	2:00	大学こども発達サポートコースの学生が模擬保育を行います。	
30	木	○	2:00		
31	金	○	2:00		